

★神戸ファッション市民大学OBによるグループ

＜神戸のファッション都市化をめざす＞

# K. F. S. news 95

事務局／神戸市中央区東町113-1 大神ビル9F  
月刊神戸っ子内TEL (078) 331-2246

## ●5月のマンスリーサロン

——恒例野外研修——

# 岡山・大原美術館 訪問記



5月のマンスリーサロンは恒例の野外研修になっており今回は、柳の枝が垂れ下がる堀割に沿って白黒の、“ナマコ壁”の家並みが続く古き良き時代の面影を残す、“まち”倉敷を訪ねた。13日の日曜日、薄雲の張る大空、五月中旬にしては少々肌寒さを感じる天候であったが、柿本会長ご夫妻を含め、3組のご夫婦の参加を得て総勢16名で新神戸、8時46分発の新幹線にて出発。途中岡山駅で、新米ガイドのせいにて右往左往させられたが予定通り10

時24分、倉敷に到着。さっそく徒歩で大原美術館に向かう。美術館本館では春の公開講座のなかで、「85年春夏の色の傾向はこの画家達の画く絵の色ですよ」と紹介された画家、印象派の巨匠モネ「睡蓮」写実派のカラーの「フェルテ・ミロンの風影」、繊細な筆づかいのセガントーユの「ア

ルプスの真昼」、モネと同じ印象派のシスレーの「風景」、ルノアールの「泉の女」セザンヌの「水浴」ユトリロの「パリ郊外」17世紀に画かれたと言われているエル・グレコの「受胎告知」いつ訪れても一番最初に出会いたい、出合って、ほんと、するモローの「雅歌」等を相変らずの雑沓のなかで鑑賞する。陶器館では浜田庄司、河井寛次郎、バーナード・リーチの作品、版画館では棟方志功の作品を鑑賞、染色館東洋館を経てひとまず館外に。さて昼

食となったがなにぶん狭い地域なのでどこの食堂も食を求める人で溢れている、どうも2時過ぎでないといつけないのでは、と心配をしていたが運良くアイビスクエアの食堂で定時より少々遅れたが昼食にありつく。ちなみに「アイビー」とは、「蔦」のことである。元紡績工場の赤レンガに多過ぎるぐらいの目にしみるような5月の緑の蔦、その中庭の椅子に、いささかのアルコールに良い気分になり青天上ではないが大空に真正面に相対して、うたた寝をする人、童心に返ってアイスクリームを嘗める人、ワイワイ、話をする人、それぞれのポーズで休息をとる。しばし散策の後、再び美術館を訪れ日本近代洋画を納めている分館で藤田嗣治、梅原龍三郎、萩須高德、岸田劉生、等の作品を鑑賞。この頃になると傘をさすほどではないが、帰りをせかすように小雨が降り出し、18時28分、やや強く降り出した雨のなか新神戸に帰り着く。

＜米田博司＞

神戸ファッション研究所  
設立基金募集中！

### ●7月の総会

日時／7月9日(月)P: M6:30～  
場所／シェ・ラ・メールにしむら

びっと・いん



★トムキャンティがリフレ

ッショオープン

ワシントンホテル1Fの  
トムキャンティが21周年を  
迎え店内をリニューアル。  
一層お客様本位になったと  
評判を呼んでいる。

人気は立飲みができるカ  
ウンターバーの新設。ハイ  
ボールや水割が300円か



カウンターバー

ら楽しめる(5時~9時)

キッチンもオープンにな  
り、調理を眺めながら飲食  
を満喫できる。家族連れや  
食事を楽しみたい向きには  
奥のレストランルームが最  
適となっている。ニューメ  
ンバー、中田実郎氏のピア  
ノ演奏も楽しみ。

□七月二日夜

シャンソン歌手大木康子  
コンサート。¥80000円

★南京町で出会う

木づくりのお店  
南京町の中ほどにある  
「はた珈琲店」は、ぬくも  
りの伝わる木づくりの調度  
品に囲まれた温かい雰囲気  
の中、香り高い炭火焙

煎の珈琲を大倉陶園やパレ  
ンチノなどの素敵なカップ  
でゆっくりと味わうことが  
できる。

「落ちつきやぬくもりが感



落ちつきを感じる「はた珈琲店」

じられ、使い込むほど味が  
出る「木」が好きなんです  
こーヒーを飲むだけでなく  
店全体をのんでほしいです  
ね」と畑芳弘店長。

各種こーヒーはもちろん

元町ケーキのチーズケーキ  
やアップルパイ、ガルソン  
ヌのチョコレートケーキも  
楽しめます。

○中央区元町通1丁目3-2 奥田  
商店2F 電話3311-5334  
9AM-9:30PM 第1・3日曜休  
元町5丁目本店もよろしく  
電話3411-3411

★「ポケット90」10ケ入を

10名様にプレゼント！  
大関酒造から発売され  
ているタバコ型サイズの  
「ポケット90」——酒飲み  
の、いや、新しいもん好きの  
神戸っ子ならもうご存知？  
キャンピンのような赤いパ



オシャレな「ポケット90」

ッケージで容量が90ml、度  
数も14・5とやや低く今流  
行のライト感覚にぴったり  
というわけ。お値段も110  
0円と並のタバコより安く  
ポケットにハンドバッグに  
持ち運び自由だ。

赤いストローがしやれて  
いてアダルトな女性に好ま  
れている。

※この「ポケット90」10ケ入りケース  
(¥100)を10名様にプレゼント  
ご希望の方は〒650神戸市中央区東町  
113-11大神戸ビル9F月刊神戸っ  
子「ポケット90」プレゼント係へ迄ハ  
ガキでお申込み下さい。7月末締切  
受け取りに来られる方に限ります。

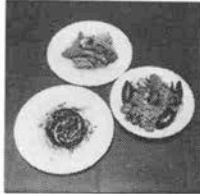
●神戸うまいもん  
とドリンキング

欧風料理とデザートのお店  
ブラッセルリー・

ド・ラ・ポスト

東灘区本山北町3-13-14  
電話078-4521-8766

学生街としても、神戸  
では名高い岡本に、新し  
くできた欧風料理の店。  
スタッフの平均年齢は24  
才。若さでムンムンの活  
気溢れる「バリ市民の社  
交場」といった感じ。場  
所からいって、若者が多  
い？と思うかもしれない  
が、和気藹々とファミリ  
ームードも一杯。お料理  
教室と題した、各自のお  
得意メニューを印刷した  
プリントもなかなか好評  
である。お手軽な料理・  
ワイン・ビールなど、す  
べて「ボクたちにおまか  
せ下さい」と若いスタッ  
フは、はりきっている。



こんなお料理が自由自在に

シニークルト&ソーセージ¥1  
000/海の幸のスパゲティ¥  
900/ウーバー・フレイナ  
イヤ¥800/ランチ¥700  
から/ティータムセツト¥4  
50

## SPECIAL MESSAGE

### 神戸百店会だより

## SPOT

●神戸で初の「アンティークドール・オルゴール展」  
6月4日～10日まで  
ベニー毛皮店（国際会館1F）において、天才人形師であるジュモ・ブリーなどの幻の名作、約100点を集めた「アンティークドール・オルゴール展」が開かれた



●幻の人形が集合  
19世紀  
のアンティーク  
ドール・オル  
ゴール展が開  
かれた

化を偲  
ぶせるアン  
ティークド  
ールの数々  
は、フラン  
ス製・ド  
イツ製共  
に、芸術  
性に富ん  
だ高級品  
ばかり。ク  
ラシック  
オルゴール  
の音が、高  
らかに会場  
に鳴り響き  
、人形に見  
入る人々は  
、大変満  
足。

## FRESH

●栄えある（？）神戸  
っ子の仲間入りを  
株式会社ミキモトの  
神戸支社に東京・銀座  
の本社から藤江俊彦さん  
が、



藤江俊彦さん  
が、  
輸出・  
卸営業  
部・業  
務課長  
として  
転勤し  
て来ら  
れた。

「素敵な女性がいるな、と  
思うと真珠のバイヤーだつ  
たり（笑）神戸は本当に女  
性のバイヤーが多いのでび  
っくりしました。とにかく  
神戸は初めてのなでまだま  
だ勝手がわからないんです  
が、できれば、山本通りに  
も小売店を造りたいな、と  
考えております」と抱負を  
語ってくれた。



## SHOW

●スプリングスペシャ  
ル「キタノ・ナイト」  
レストラン・ナイト  
クラブ北野クラブで、  
5月30日、31日、超デ  
ラックスなラテングルー  
「ベドロ&カプリシャス」  
を招いてディナーショーを  
開催。



トロピカルムードいっぱい  
「別れの朝」  
を  
は  
じ  
め、  
「ジ  
ョー  
ニー  
への  
伝  
言」  
「五  
番  
街の  
マ  
リ  
ー  
へ

## FAIR

●オリエンタルホテル  
でオーストラリアン  
フェス  
「太平洋の宝石」シ  
ンド  
ニーの美しい港に代表  
される  
すがす  
がしい  
国、オ  
ース  
トラ  
リア  
の物  
産と  
即売



実演中のスピニング  
が  
し  
る  
み  
や  
オ  
ー  
ス  
ト  
ラ  
リ  
ア  
の  
特  
別  
料  
理  
も  
好  
評  
と  
り  
わ  
け  
、  
人  
気  
の  
的  
と  
な

市が、6月2日～15日の間  
神戸オリエンタルホテルで  
開かれコアラベアのぬいぐ  
るみやオーストラリアの特  
別料理も好評。

「などのヒットソングをは  
じめ、今年1月21日に発売  
されヒットチャート上昇中  
の新曲「横浜レイニーブル  
ー」を披露。最後はお得意  
の強烈なラテンロック。  
春の終わりを飾るトロピ  
カルなキタノ・ナイトであ  
った。

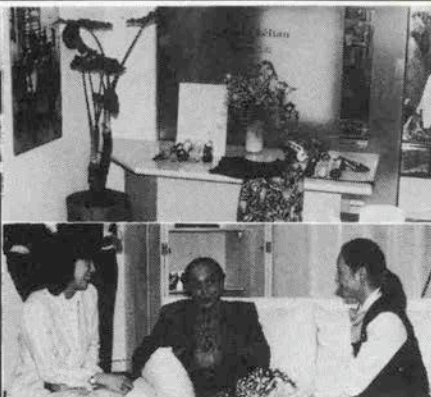
また、7月14日には、姉  
妹店のレストランブラン・  
ドウ・ブランで風かおるさ  
んを迎えてのディナーショ  
ーが開かれます。ショータ  
イム／18時30分・20時45分  
至14000（税・サ共）  
□レストランブラン・ドウ・ブラ  
ン（321）14555

ったのはオーストラリア直  
送の原毛を使った「スピニ  
ング」（羊毛の手紡ぎ）。こ  
れは、オーストラリア独自  
の手法で、野性的な糸を紡  
ぐもので、次々と紡ぎださ  
れるスピニングの実演は特  
に若い女性からミセスにま  
で人氣が集中した。

現在「手づくりの良さ」  
が見直されつつあるが、「自  
分だけの糸をスピンドルや  
糸車で紡いで、あなたのオ  
リジナルを」と、今秋、9  
月には毛糸スタジオもオー  
プンの予定。

□問い合わせ 株式会社、ヤラ商会  
電話3315581／宮地汽船株  
式会社 気付





この夏、あなたもメッシュの靴を一足いかが？  
ロリザ・サロンハ神戸本店  
電話(391) 6806

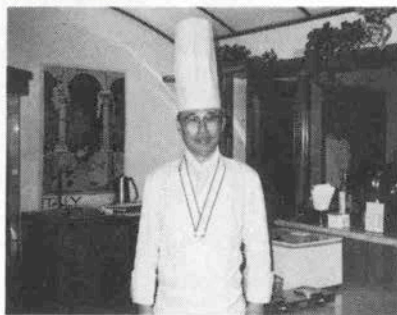
「一つのシルエットにこだわらず、その日のファッションでいろんな靴をはいてほしい」とクリアン氏。

大牧晴男・ロリザ専務取締役役とのテーブカットの後、来られたお客様とテイバーテイ。

リザ・サロンハ神戸本店(センタープラザ3F)に、メッシュの靴でおなじみの「ステファン・クリアン」のコーナーがオープン。それを記念して、ステファン・クリアン氏が5月19日、神戸本店を訪れた。

●リザ・サロンハパリのエスプリ

## PEOPLE <22>



●伝統を守りながら新しい味も皆様に  
石坂 勇さん <神戸オリエンタルホテル副支配人・料理長>

オリエンタルホテルに勤めて36年というから、戦後の神戸とともに料理一筋の大ベテラン。「古典的なフランス料理を大切に守りながら、かつ時代とお客様のニーズに応えたいですね」とニコニコ。57年のルクセンブルク第1回ガストロノミ展で金メダル。昨年は大阪城築城400年祭の大阪グルメフェアで準グランプリ。

## TOPICS

●UCCコーヒーの上島珈琲(社長上島達司氏)が同社富士総合工場(静岡県富士市増川)の敷地内に建設中だった研修センターが完成。これは、コーヒーの木がどのように栽培され、成長するか目で見られるようにするために建設されたもの。1階には、視聴覚設備として16ミリ映画設備、スライド映画設備のほか、ビデオプロジェクトやオーディオヘッドプロジェクトなどが完備。また、2階にはコーヒーを科学的に分析する研究検査室も設置されている。建築面積は1階が140平方メートル、2階が136平方メートル、屋階14平方メートル、

●バステル色のオ・イ・シ・サ本高砂屋のバスパーラを甘さをおさえたシャーベストフルーツの生きた香りを運ぶゼリー、なめらかな口あたりのムース、と個性豊かな夏のデザートセットで10名様にプレゼント。アフタースポーツに、ミセスのホームパーティーに楽しさをえることでしょう。



●シンワから  
バイル地のスーツを  
センター街のブティックシンワには綿、麻等自然素材のサマーファッションがいっぱい。その中からカラフルなストライプが神戸らしい綿バイル地のスーツを一着プレゼントします。タンクトップと組み合わせれば夏の旅行に重宝な一着です。



## PRESENT CORNER

●応募方法 ●葉書に住所、氏名、電話番号、希望する商品名を明記の上、神戸市中央区東町13-1大神ビル9F「月刊神戸っ子」神戸百店会プレゼント係までご応募下さい。7月20日消印まで有効です。当選者には神戸っ子から当選葉書を送、葉書を持ってお店まで、プレゼントを受け取りにお出かけ下さい。

●大丸前・つるや衣業店は7月1日・神戸ポートピアホテル前夜の間、婚礼衣裳の展示会を開きます。店内状をご利用の方はお申し付けください。  
電話(321) 0360

# ポケット ジャーナル



## ★来春、淡路島全域で

「くにうみの祭典」開く  
淡路島といえば、国生みの神話



でつと  
に有名  
だが、  
来春4  
月21日  
から8  
月31日

までの133日間、「公園島・あわじーくにうみの祭典」が開かれる。全体のテーマが「2001年への出発」とあるように、これは兵庫県が進める「南北緑の回廊計画」への一大プロジェクトといえる。

主会場は、「おのころアイルランド」(津名町)の他、鳴門橋記念館だが、全体で130万人の入場者を見込んでいる。

現在、バラエティー豊かなイベント企画と会場建設が進められているが、5月

26日から前売券(2割引)が発売された。8月末までの限定発売で、海外旅行招待などの特典もある。

前売券V大人1600円、中学生960円、小学生800円、幼児320円。問い合わせは「おのころアイルランド事務局」(電話36118635)まで。

## ★神戸フランス週間開幕を

機に日仏の画家が交流  
洋画家二紀会の西村功氏  
が5月30日〜7月3日まで渡仏、神戸港と姉妹港のマルセイユで、同地の画家J・C・キリシ氏と友好を温め、共に来神、個展を開く神戸フランス週間の始まりにふさわしい交流の一幕である。7月1日〜14日まで開催される「神戸フランス週間」主要イベントは次の通り。



●ルイ・ヴェイトンの作品  
月3〜8日  
●神戸国際会議場レセプションホール  
●キリシ松画展/7月5〜10日  
●ギャラリさんちか●西村功展/7月12〜17日

・ギャラリさんちか●日仏科学技術シンポジウム・実見を語る(フランスの宇宙開発映画上映、TGVロケット等の最先端技術を紹介)7月12日1時半神戸国際会議場403号室  
●特別記念座談会・私のフランス観7月14日1時半神戸国際会議場メインホール(NHK磯村尚徳局長と立命館大学名誉教授岡武雄氏の対談)

## ★5周年迎えたワインの会

神戸のワイン通が集まる神戸ワインクラブ(長島隆会長)が、5周年を迎え、相楽園会館で5月12日の夜ワインパーティが開かれた。さすがにワイン通の会だけあって、当夜飲んだワインは、期待の神戸ワインを始め、ドイツ、フランス、イタリア、オーストラリアアメリカとバラエティ充分。小笠原元副知事、フランス副領事、森鼻神戸市長、政局課長さんらのゲストに寺本晃、角田嘉宏、新谷秀紀、村上和子さんら会員ビジター約80人が集った。ワインを愛する人が各国のワイン競べを楽しむところがいかに神戸的。



どのワインがウマイかな  
事、森鼻神戸市長、政局課長さんらのゲストに

## ★教育への熱意ムンムン

PTA広報紙コンクール  
「活力ある子育て」をめざし、家庭教育の原点を問

## 誕生日 ありがと 運動

山田さんからの  
あたたかい贈り物  
本運動は、みなさんのあたたかい福祉の心を支えられて、順調に発展しています。



この五月八日の本運動の十九周年にふさわしい心あたたまる話を紹介いたします。

五月十一日、三宮の国際会館内の本運動事務所へ一女性がこれら一通の封筒をさっとおいて帰られました。事務ボランティアがあわてて、住所とお名前は書いていただきました。神戸市兵庫区羽板通の山田きよ子さんで、中には十万円も大金がはいっていました。

早速、本運動から運動参加カード・啓発紙等を送りお礼申しました。折り返し山田様から次のような要旨の手紙がきました。

(前略)あのお金は、私にとっても大きく大金です。この度生まれた三人目の子は、二度も原因不明の流産の末、授かった子です。だから、この子がお腹にいる時から無事生まれたら私のヘソクリを感謝の心をこめて社会に役立ててもらおうと心に決めていました。この運動のことは、十分知りませんでしたが、あの世辞にもりっせといえない事務所で一生懸命仕事をされている皆様の様子や、送ってもらった啓発紙を見てとても心をうたれ、運動に参加してよかったと心から思っています。山田様の人間的なあたたかさを胸に本運動はさらに前進します。

誕生日ありがと運動本部  
652神戸市中央区御幸通八十一番六  
神戸国際会館一階の郵便局の隣  
電話二五一八六一内線三二六



い直すため、ユニークな活動が続ける財団教育財団（西本博理事長）による「第2回PTA広報紙コンクール表彰式」が、5月25日垂水水産会館で開かれた。

PTA広報紙とは、子どもたちと学校を結びミニ新聞で、もちろん母親たちが手づくりで取材、編集、割り付を行なうだけに、それ



PTA広報紙づくり  
満席のコンクール  
十色だ

今回は応募数140校、表彰式出席者も約300名と、親たちの教育と広報紙づくりへの熱意がうかがえた。

★空間があなたを決定する  
神戸の私設図書館第一号  
三宮2丁目に私設図書館  
「ザ・ママエ・ブライベイ  
ト・ライブラリー」がオー  
ブンしている。2時間まで  
250円（以後1時間毎に90円  
増）で緑茶のサービス付。  
喫茶店並みの安さと夜遅  
くまであいているのが受け  
ている。オーナーの前岡和  
子さんは「とにかく安く利  
用してもらいたい。これは  
利益重視の企業への小ぶり  
ながらの反逆です」と言う。

いずれ蔵書も増やし、観光客がプランを立てられるよ



3階のライブラリー  
戸コー  
ナーも  
設ける  
という

図書室で4階はザ・ママエ・アティックというキツチン付のレンタルスペース、階段のデッドスペースを利用したギャラリーもある。

■住所／中央区三宮町2-10-10  
ザ・ママエ・ブリック・ハウス3F  
(331-5669 水曜休 日・祝  
日/10時~22時 平日10時~23時  
★詩情漂う

#### 稲田勝己写真展

6月14~24日、大阪高島屋ファッションプラザで、神戸のプロデューサー、フーリストデザインバンクの稲田勝己による写真展、「PHOTOGRAPHIC・DRAWING 旅の時間」が開かれた。



コレクションから  
構図色  
彩とも  
鮮やか  
な出来  
となっ  
ている

フロアレンスを取材したときの写真の数々。朝と夕の街の表情がこころに

余技や趣味の域を超えて「写真家」稲田勝己の声価は既に高く、コレクターのひきあいも出ている。

あなたも写真鑑賞で「旅の時間」を過ごしてみませんか。

★写真展の後、三宮本通りの喫茶店「ドルメン（331-5220）」に一部コレクションされます。

★北野町の旧グラッシア二邸でステンドグラスを異人館通りのローズガーデン山側、旧グラッシア二邸が7月よりイマジネーションステージ「Glass in」としてオープンする。



旧グラッシア二邸  
品揃え  
豊富で  
豊富な  
品揃え  
で販売  
品揃え  
豊富で  
豊富な  
品揃え  
で販売

ステンドグラスの材料であるガラスを手続きガラスのアンティーク物中心に關

#### 図書ガイド



中右 瑛

浮世絵のコレクターとしては、日本でも第一人者の著者が「浮世絵に見る」阿蘭陀の影響から、江戸時代における異国情緒、江戸人の外国へのあこがれ、絵師の趣味性を解きあかそうとした本書。著者の浮世絵趣味、阿蘭陀へのあこがれも、随所にみられ、興味津々。（里久出版 ¥3800）

「伯蘭夫人は雨が好き」石塚俊樹

表題作はじめ四編が本書に収められている。SFファンタジー（とあってジャンル付けをするが）もここまで文学の香気が漂う世界になつたのか、と思ふ次第。表題作の中に散りばめられる「雨」「音楽」「映像」「絵画」の世界は美しい。ただ繊細といえれば聞かえないが、線の細さが少々気になるといえるが、それはアニアの判断に委ねることにする。愛読者へ5冊プレゼント。（プレイガイドジャーナル社 ¥7800）



「理ばやし」

夏が近づくとボンポロ開いてくる。どこやらのビールの宣伝ではないが、最近ますますつらと富士正晴は唄うのである。この富士正晴、たまに人恋しい。酒について老いについて、交友録、私用の小説など、忙月忙日、茫月茫日の思いをさりと綴つた好エッセイ集

（編集工房ノア ¥1600）

Hot & Ice "Take One" という観光客向けのテイクアウトのショッパが誕生する。

□ステンドグラス教室生徒募集  
中北野町4-8-1 電話2422-1637

### ★一生一度の想い出を

平安閣で実現しませんか  
文金高島田に打掛姿は女性には永遠のあこがれ。

でも結婚式の夢を実現できなかつた方もいるという話を聞きますが、そんなお二人にぴったりの思い出つくりをと、現在、総合結婚式場の平安閣が「二人だけ



## 花時計



### 文化と行政の谷間

今年、神戸市が神戸の「水」を売ることになったという。「神戸ワイン」も間もなく発売されるということである。

非常に積極的な行政として全国第一を誇る「神戸市株式会社」の猛進は流石という外はない。

勿論、敬意も表するし

の結婚式」を特別企画。

平安閣ならではの豪華な挙式と記念写真、及び衣裳こみで3万円という格安料金。10名までのミニ披露宴で10万円。あなたご自身、あなたのお知り合いの方にそつと教えてあげるのも、粋な取りはからいだと思いませんか。(9月15日まで)

□問い合わせ 神戸平安閣(078)351-3390 阪神平安閣(06)413-3303

★電気屋さんの2階へればモダンなギャラリー  
三宮の中心、三宮本通りに6月6日、ギャラリー・ほりかわがオープンした。木目を生かした、ちよつと山小屋風のつくり。でも

脱帽もするが、これだけのかなという気がしないでもない。

つまり、行政はあくまで市民のための行政でなければならぬ。もしも少しでも市民の商売に直接、間接に影響を与えるものであればこれは矛盾がある。こんなところは為政者の細かい気配りがほしいところである。

最近には神戸市も文化行政に非常に熱心である。それこそ結構なことで広報誌の「C情報」なども充実してきて見事なもの

この特徴は、なんといつても、照明で、太陽光に近いけい光灯をつかつており



堀川昭年さん作品の色が自然に近い状態

年さんは「アマチュアの芸術家に安い料金で、スペースを提供したい。とにかく、少しでも長く続けていくだけです」と静かに語ってくれた。

■住所/中央区三宮町2丁目9-11  
■安東電気店2F 電話331-2485  
■時間/10時~19時(水曜休)

■使用料/¥100,000(6日間)

である。だが、どんなに充実して、行き過ぎると困ったことになる。

神戸にある数誌のシテイマガジンが打撃を受けることになりはしないか行政が文化と取り組むとき行政という強力なパワーで突き進むと、折角の文化が崩壊する。芽をつんでしまふ。文化活動は根強いようだが、一方では壊れやすいガラスのようなどころがある。すべて慎重な取り組み方をお願いしたいものだ。

△Y△

## KOBE POST

★摩耶山天上寺(伊藤浄賢住持)  
の金堂立柱式が、5月26日に、同寺金堂興建聖地で厳そに行われました。

★作家堺本太一氏(池口小太郎/史子)が、住所を移転。〒160東京都新宿区愛住町2ノ5 電話(333)2300事務所は従来通り、東京事務所〒102東京都千代田区四番町5ノ4/209サンバーハイイツ四番町209 電話(263)2010大阪事務所〒530大阪事務所〒530大阪市北区梅田町1ノ13大阪駅前第3ビル911 電話(34)7670

★邦舞家の花柳舞臺氏が、この程花柳舞臺と改名されました。〒650神戸市中央区花隈町10番2号 電話(34)1057

★神戸市民文化振興財団の常任理事兼事務局長の三輪素士さんが退任され、4月1日より大河原徳三さんが着任。市民リクレーション課の吉田義武さんも文化振興財団へ

★画家の初田寿さん(八京/宏美)努力が5月に転宅されました。〒650神戸市東灘区住吉東町1丁目6ノ12 電話(81)5012

★アサヒフアミリーニースの名編集長として人気のあった重森義さんが、朝日新聞社を退社。これは神戸新聞出版センターに席を置いて、この秋の創刊する「味の雑誌」(未定)の編集長に迎えられる。

★徳島市のタウン誌「あわわ」が「株式会社あわわ」として新スタート。事務所も移転〒770徳島市佐古6番町4-23(ヤタケビル2F 電話0886(54)38224)

★カネボウブティック株式会社(神戸元町)クリスチャンディオールブティック(黒田夏代店長)が6月1日より元町のパールパローレB1に新装オープン。〒650神戸市中央区元町通3ノ9ノ8/パールパローレB1 電話(078)391-046

4



お客さまにお出しする器は  
すべて古陶器の逸品です。

●今月の一品●

「八寸血染錦竹に福良雀」

藍染付の竹に金色で福良雀をボンと飛ばした図柄は、いかにも涼し気な感じ。江戸時代後期の伊万里焼きです。

※他に印判手富士に龍図小皿、伊万里菊図刺身皿、明治のガラス徳利・猪口



山形や 裕 久

神戸市東灘区本山北町3-11 本山市場東（阪急岡本・国鉄摂津本山各駅から徒歩3分）

電話 (078) 452-2905 午後5時-10時 月曜休（駐車場が近くに変わりました）

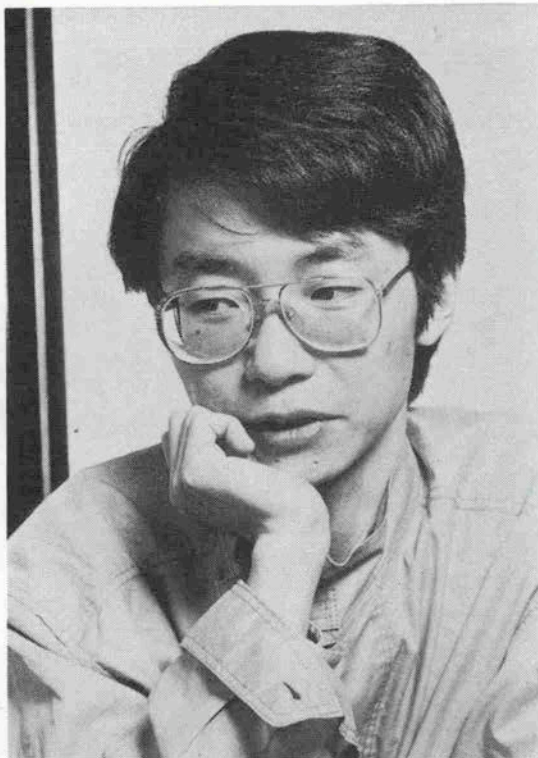
※焼鳥コース（皮・ズリ・きも・ねぎ身・ミンチ・野菜2種類）他に、季節の風味として五目山菜釜めしの美味しいシーズンです。



多田智満子対談シリーズ ● 午後の対話 18

# スキゾ・キッドは今日も いかがわしく遊走する

浅田 彰〈京都大学助手〉 VS 多田智満子〈詩人〉



「港町っていうのはあんまりお祭りを必要としないんじゃないかな」浅田さん

多田 浅田さんとは一度京都でお会いしましたね。

浅田 ええ、確か人工宝石についての座談会で。何となく宝石にちなんでファッショナブルに出会ったわけですね（笑）。

多田 あの時にね、私なんか読んだこともない難しい本のことが、頭の中に連発銃の弾丸のように装てんされていて、機に応じてポンポン飛び出してくるものですか、もうすっかり舌をまいちゃって、これは大変なアンファン・テリブル（怖るべき子供）だと思っただ。案の定、それから間もなく世間が浅田さんのことをアンファン

・テリブルといって騒ぎ出したのですよ。

浅田 全然ダメ（笑）、全部ナナメ読みですヨ。

多田 で、また驚いたことに私の本まで読んでおられた。

浅田 それはモチロン、カンペキに読んでおりますね（笑）。僕は神戸生まれということもあって、神戸の港町としてのオープンな雰囲気や瀬戸内海のもってる一種地

専門家向けに書いたという難解本『構造と力』がたちまちベストセラー、とともに筆者の浅田氏も今や若者のアイドル的存在に、というフシギな世の中。スキゾ・キッド浅田氏と多田女史のこれは無責任な交通事象的対談。

『構造と力』は知的権威というより、ほとんどアイドル本

中海的な明るさみたいものがスキで、多田さんの作品なんかもそういうものの一端を伝えてくれるので愛読しているんです。なんちゃって(笑)。ホントですよ。

多田 ありがとうございます。朝日ジャーナルに、浅田さんの本棚の写真がカラーでうつっていましたが、私の本が何冊かならんでいるのを見て、感激してたんです(笑)。しかし浅田さんは今やタレント並みの忙しさみたいで。

浅田 アハハ。でも僕は基本的に電波のメディアは一応シャットアウトしたので、わりとのんびりしてるんです。

多田 時間的なあとさきで言う「逃走論」の最初の、あの大変……

浅田 いかかわしい(笑)。

多田 いえ(笑)、あのポップな感じで書かれたものと、「構造と力」の正面切ったものと、どちらが先に?

浅田 やっぱ最初は「構造と力」のほうがですね。でもそういうカタイものに飽きたから軽くやろうって感じじゃなくて最初から同時進行をめざしていたんです。



「祭りって、本来的には、事故が起こるくらいなのが本当でしょうね」多田さん

多田 「構造と力」も、あれ内容は大変高度なものだけれど、とても軽快に書いてある。で、つい読まれて読まされてしまうというか(笑)。

浅田 普通ね、軽薄短小文化が飽きられてきたからもっと重厚長大なものがウケるんだっていう言い方で「お勉強ブーム」が位置づけられるんだけど、僕の場合はむしろ軽薄短小のままで学問をしたっていいんだ、というスタイルで全部突っ走っちゃった。まあ真理をキワメルっていう重たい感じよりもチャートにしてカードゲームをやってみよう、という軽い感じで書いてるつもりなんです。でもまだまだそれでも重たいわけで(笑)。

多田 ええ、あれ初めのうちは、正直言って、難しいと思いました。記号論などの専門用語が何の説明もなく次々出てくるんですもの。多少本を読んでも人なら、ドクサやエントロピーぐらいは我慢するけれど、リゾームだのネグントロビーとなると、もう許せないノって感じ(笑)。でも浅田ベースに慣れてくると読みやすくなって、後半はもうすっかりわかったような気になりました。

浅田 ついついノセられちゃうという(笑)。逆にこちらから言うところ、セチャうわけ。たしかに「構造と力」は記号論なんかの知識を予めもった特定の読者を対象としてますからね。それとね、僕が怠惰でいちいち説明するのがめんどくさくて(笑)。それにしても全然途中を説明しないという手抜き本なので、ほとんどサギに近い(笑)。

多田 だけども、それが成功したんですよ。《依らしむべし、知らしむべからず》という態度ね。大衆はこの種のものに弱いんですよ。でもあの本、やっぱ普通の人にとってはとつきにくいです





ね。

浅田 ええ、それは僕をめぐる一連の現象への批評にな  
っているね、実際にはざっくりばらんチャートのつもり  
が一種こう物神化されて受け止められちゃって、それと  
ともに著者である僕も何か「若者たちの神々」の一人に  
なっちゃって(笑)。

多田 いかがです、ご感想は？

浅田 僕はわりと自分の虚像があちこちに汎濫して、色  
々異った受け取られ方をされるってことを楽しんでや  
から、それによって自分のアイデンティティが侵害さ  
れるっていう恐怖は余り感じないですね。むしろ「ワ  
イツ、こんなこと言ってる！」って喜んじゃう(笑)。  
実際、いわゆる大衆社会批判という文脈で論じられる時  
は、資本主義化した情報産業としてのメディアは知的ヒ  
ーローを次々に捏造して、大衆をそれで幻惑していく。  
今回の僕に関する現象もその一つで大変困ったことだ、  
という言い方をするんですが、僕ぐらいの感じで注目さ  
れてしまうと、もはや知的ヒーローというよりもアイド  
ルなんですね。それで本自身も知的権威として読まれる  
よりもアイドル本としてガジェット化されちゃう(笑)。  
それは少くとも危険なことではないし、楽しいことじゃ  
ないか、っていう気がするんですよ。

神戸ってあまり祭りを必要としない町じゃない？

多田 ところで今、ちょうど神戸まつりやってね。

浅田 あれはいったいなんですか(笑)。

多田 その、お祭りって本来神様をまつるものですよ。

それがこの頃は自治体が「神戸まつりですよ」と主導し  
てやるわけ。ああいうものをどうご覧になります？

浅田 いやあ、ゴクローサマだと思えます(笑)。聖なる  
ものがなくなった時に、それを人工的に創り出そうとい  
う欲望がでてくるのは自然だけど、やっぱりそれは人工  
的なもので、ずいぶん奇妙なものにならざるを得ないで  
しょうね。

多田 ごてごて盛りだくさんに花はあるけれど、結局根  
のない祭りですか。

浅田 僕の港町のイメージは、あまり祭りを必要としな  
い町っていうイメージなんです。例えば山の中なんかの  
閉ざされた村落や農耕共同体だったら、年に1回くらい  
はうさを晴らすために何かやらなきゃいけない、外部の  
力を導入することで共同体を蘇生させなきゃいけないん  
です。でも港町はのっけから外部である、というか、色  
んな世界とのコミュニケーションの束としてあると思っ  
たんです。海の上で、ただ交通のネットワークとしてだけ  
存在するような都市では、常に外に開かれているがゆえ  
に、わざわざお祭りなんてしなくていいんだ、という鬱  
囲気があって、僕はそういうのが大好きなんです。

多田 この頃は祭りというコトバが非常に不正確に使わ  
れていて、何かこう派手なスペクタクルがあって人が集  
まれば何でも祭り、ということになる。

浅田 そうそう。でもベニスの祭りでもね、あれは謝肉  
祭としては退廃した形態で、祭りが単なるスペクタクル  
になってるわけですが、そういう風に俗っぽく外へ開か  
れているところが港町の魅力で、僕はそこにわざわざ農  
耕共同体原理に基づく祭りみたいなものを持ち込む必要  
はないんじゃないかしらって感じがしますね。

多田 よく神戸市株式会社って悪口言われますけれど、  
その神戸市主導で神様不在の祭りをやってる。強いて神  
様と言え、いわゆる「諸商品の神としての貨幣」が行  
き交うだけで…。だから本来的な祭り、つまり過剰なも  
のを年に一度そこで使い尽くし、共同体を活性化させる

ような祭りじゃない。

浅田 ナイデスネー。

多田 何年前かに神戸まつりで車をひっくり返したり、火をつけたりで死者がでたでしょう。もちろんあんなことはあってはいけないんですが、本来の意味からすれば、あれが本当の祭りのなるものではないか。

浅田 そう。率直に言って人が死なないような祭りは祭りじゃない。その事故をきっかけにして、祭りを安全にしていこうなんてことが起こってくる。そうするとますますツマラなくなる一方だね。

多田 初めから機動隊が出動して、騒ぎそうな連中をシャットアウトしてますものね。

浅田 だからあれは二重三重にへんなお祭りだナァー。

神戸みたいに記号論的構造がハッキリしてる町もないな  
浅田 僕は、神戸について、ある意味でシンボリックな構造がこれほどハッキリしている町もないと思うんですよ。つまり山側と浜側、そして大阪側と神戸側という2つの軸があって、ものすごくハッキリした差異の構造(笑)があるでしょ。

多田 そうなんです。電車でも山の手から海へ、阪急、国鉄、阪神とちゃんと3通りのレベルがあるわけ。

浅田 それで大阪に近づくほどダサくなるとかね(笑)。

こんなに記号論的構造がハッキリすると、余りにハッキリすぎて小説も書けないんじゃないか(笑)、つまり山側で神戸寄りの人と浜側で大阪寄りの人が恋愛におちいった場合、どういうダイナミクスが働くかというこ



とがほとんど予定調和的に読めちゃう(笑)。それに神戸って海に向かって開かれていると同時に、陸の上にも定住する町、つまりある程度固定的な構造がハッキリしている、非常に土着的・定住的要素も強い町でしょ。そのへんが複雑なところだという気がしますね。で、その固定的な構造がかなり強く人を拘束したりする。

しかしファッションなんかはどうなのかな。やっぱり東京の人なんかを見ると、ファッションっていうのは神戸あたりではじまるんだ、っていう神話はありますけどね。

多田 それは神話でしょうね。今やもうどこだって、ほとんど均質化されてるでしょ。

浅田 田中康夫さんのファッション評論によると、この阪神間が本場なんだそうですよ。それはもちろん東京に居て、そことの差異をつくるためのストラテジーとして言ってるわけでしょうけど。

多田 なるほどね。こっちは全然違いのわからない人(笑)なものだから(笑)。

浅田 田中さんの論理は僕が言うのと逆だね。東京だと常に流動していて新しいものがどんどん出てくるんだけど、それは一過性のものにすぎない。でも神戸だといわゆるブルジョアの構造がキチンとあって、それを背景にしていってこのお嬢さんが遊ぶから本場のファッションなんだ、っていうロジックなんです。僕はあまりそれは信じないですけどね(笑)。

全ての交通は「交通事故」でなくちゃ

多田 この間、阪急六甲で電車の衝突事故があったでしょ。うちは主人ともども物見高いもんだから(笑)、二人して見ていったんです。昼前の事故だったのに、夜になってもまだ踏切はふさがりっぱなしで、暗闇の中に事故現場が煌々と照らされていて、その辺に見物の車が止め放題止って、まるで無法地帯。巡査も黙認です。それからして面白かった。普段とまるっきり違うのね。で、衝



突した電車を切断しているのが、パツパツと火花を散らして、それがまるでお祭りの火のように見えるわけ。それを大勢の野次馬が生き生きた顔して見てるんです。

浅田 突発的なお祭りだったわけですね。

多田 そうなの。完全な祝祭空間ができあがってました。うちは六甲だから地の利をしめちゃって存分に見物できたわけですけど、何だかさつきから無責任な話ばかりで、こんなこと言っているのかしら(笑)。

浅田 いえ、実は僕も事故はスキな方ですね(笑)。

多田 昔から「火事とケンカは江戸の華」とか言って、ああいうものはやっぱり楽しいものなんですよ。普段起らないことが起って、日常のルーティンを破るワケですから。

浅田 僕は「交通」というコトバをキータームに使っているんですけどね、「全ての交通は交通事故である」というテーゼがあって、本当にオモシロイ接触が起った時には、交通事故的なお祭り騒ぎみたいなものが必ずでてくると思うんです。それはもちろん、そんなに派手な事故でなくてもいいんで、例えばある本とパツとぶつかるとか、ある人と喋ってパツと合っちゃうとかいう風なことがあると、普段見慣れている構図と全然違った図柄がそこに出てくる。そういう予想外の事故が突発するのが本当の意味での「交通」じゃないか、という気がしますね。あらかじめ予想がついて、それがだんだん確認されていくコミュニケーションっていうのはやっぱりつまらないと思うんです。で、知的世界に関していうと、日本の場合、そういう本来の意味での交通が少なすぎた、ということがありますね。日本はヨーロッパやアメリカに対して開かれてるように見えるけど、最終的には余り事故が起らないような格好でコミュニケーションした。多田 日本って根回しとかいうものを重んずる社会だから、あらかじめある程度の合意をえておくでしょ。浅田 そう。先に土俵を作っというて、その上で出会うせ

るから、たかだか土俵の中で全てが済んじゃう。土俵のない所でスパーンと当たった時に、大事故が起るっていう面白さがないんですね。

多田 国会なんてそのいい例ですよ。事前調整ばかりやって、突発事故が起らない仕組みになっていて。

浅田 それこそ電車と電車が衝突するくらいメチャクチャなことがコミュニケーションの世界でも起り得るはずだし、それが起った時にはじめてエキサイティングになると思うんですけどね。

今日のソフィストはいかがわしく遊走する

多田 そういう意味では A・A<sup>アキヲ</sup>現象なんていうのは、かなり予想外の現象で面白いんじゃないですか。

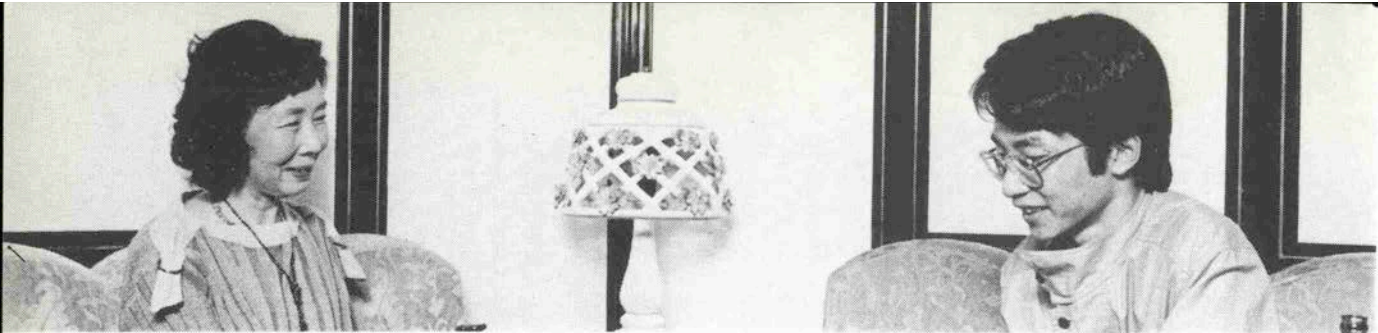
浅田 ウーン、そうかな(笑)。いつも言ってるんだけど皆僕を「天才、天才」って言うけれども、あれは「天災」のほうだ、って(笑)。かなりの天災であつたには違いないですね。でも僕はなりに無責任でね、事故に関しては責任をとりきれない、っていう思想なの。あえてそこは無責任に突っ走ればいい、と思ってるんです。

多田 それは「逃走論」なんてまるで無責任の見本みたいなもので(笑)。

浅田 アハハ。あんな無責任なこと言ってもいいのか(笑)ってなカンジ。あれは確かに一種の自己矛盾だね。

「逃走論」っていうタイトル自身、自己矛盾なんですよ。「逃走」を整合的に論ずる、っていうのが第一おかしいでしょ。それに「逃走せよ」つまり勝手に逃げろっていうメッセージは、このメッセージにも従うな、っていうことを暗示していますからね。でも、それをあつけらんと云っちゃった方が、まあ、読んだ人が元気になるんじゃないか、という気がして(笑)。それで非常に無責任にもヌケヌケと言っちゃったわけですよ。

多田 少くとも色んなところにコレステロールのたまわてきつある人間にとっては、いい冷水摩擦になりますよ、ああいうの読むのって。



浅田 僕は小学校の頃、わりとよく転校したことがあってね、転校を重ねると基本的にソフィストになると思うんですよ。例えば給食を残すことは絶対悪なのダ、という学校もあれば、そんなの全然どうでもいい、という学校もある。あるいは先生が教室に入ってくる前に起立しなきゃならない所もあれば、入って来た後で起立する所もある。そういう文化の違いをいくつか通過すると、ソフィスト的な眼を身につけちゃってね、"なーんだ、こんなの全くこの文化に特有の約束事じゃないの" っていう風に裸の王様のなことを言いたくなっちゃう。それをトコトン言うと、ああいう本になるわけ。そういう意味で僕は自身"交通"や"移動"を知的に体現したっていう欲望がすごく強いんです。だいたいソフィストや知識人って色んな都市を巡り歩いては、これはヨソでは違うんだぞ、なんてこという人でしょ。僕はそういうのが非常に好きです。

多田 昔の人は今みたいに

ラジオやテレビで他の土地のことを知ることができなかったでしょ。だから旅人っていうのが他所からの情報をもたらす人で、旅人をもてなし、珍しい話を聞くことがとても楽しみだった…。

浅田 ええ、それはすごく大きな快楽なんですよ。閉じた共同体だと結局同じ情報をくり返すので、それが摩耗していつて、皆、退屈しちゃう。旅人が来た時にやっと異質な情報が入ってきて、それがハイブリッドな異種交配を生み出す。それが知識人の原型だと思うんですよ。

多田 そうですよ。古代ギリシャのソロンにしろヘロドトスにしろ、世界を歩き回って色んな情報を得て、見聞が広いということでもとても尊敬され、いい扱いを受けてました。彼らは今の新聞やテレビを具現したような人物で…。

浅田 彼らが一種のメディアだったんです。

多田 でも学問の分野などは特に、近代になってハイブリッドなものを排除してしまつて、全部専門領域がハッキリしてきているでしょ。他のことに興味をもつと"アイツは専門家のくせに…"なんて見方をされちゃって。

浅田 だから、もともと知識人っていうのは、そういうメッセンジャー的な旅人であったはずなのに、何かに狭い所への定住を強いられるところがあつてね。だけど知識なんものは、それを得たとたんによそへいや応なく開かれていくようなもの、自然とブワツと横断的に結合しちゃうものなんです。

多田 ですから専門化がひどくなる一方では、いわゆる学際的な動きも出てきていて、非常に巾の広い人物も出てきますね。それから学際的というような上品なものでなく、もつと雑学的な。浅田さん書いてらしたわね。

「いわゆる知識人たちのはずかし気もない雑食ぶり…」だったかしら？

浅田 ええ、"みさかいのない雑食ぶり" (笑) それは一種不可避なものとしてありますね。恐らく19世紀の学問



の職業化・制度化ってコトがそういう分散的な定住化を強いたと思うんですよ。それはずいぶん無理なこと、もうそろそろ限界に達しつつあると思います。僕はね、自分が港町生まれだという意識をなんとなく昔から持っていて、それが旅するソフィストだっという意識に委容し、最終的には脱領域的・横断的に知的な遭遇を求めてうろつき歩く、ということになっちゃうんだけど、それは一種の生理として身についちゃってるんですよ。

多田 そうね、浅田さんは非常に軽快に走るというか？

浅田 イエ、いかがわしく遊走するというか(笑)。

多田 そうねえ。遊走ってカンジね。

ハイテク時代の宗教ブーム、おそろしいネ

浅田 最近よく思うんだけど、この「お勉強ブーム」っていうのは割と早く終息してね、代りに宗教がすごく流行ると思うんですよ。すでもう、本屋の精神世界のコーナーの本ってすごく売れてますけどね。

多田 「お勉強ブーム」ってつまり？

浅田 僕の本なんか売れるコトね(笑)。お勉強ブームって、根拠が何もなくなくなっちゃったから、あらたな根拠を求めて勉強でもするか、っていうことなんだけど、勉強って結構シンドイし、本気になってやりだすと逆に根拠がないってことが分っちゃうものだから、あまり助けにならないんですよ。宗教、とりわけ大衆芸能的なものと結合した宗教は、その点一層手軽な根拠になるわけ。例えば阿含宗のように大衆化した密教のようなものが流行ってますけど、そこではハイテクノロジーと密教とが結び付くんだ、ということ、レーザーとかシンセサイザーを駆使して派手なショウミたいな祭典をやるんですよ。それと、松任谷由実や松田聖子のコンサートとは、結局お互い模倣しあってるわけで、宗教的な盛り上りをつくってるんですよ。

多田 松田聖子が御神体になっちゃう！

浅田 松田聖子はもひとつダメらしいですけど(笑)。で

もそうやって安易にファッション化した形で宗教ブームっていうのが起こってきていて、これはかなり強くなるんじゃないかなアという印象を持ってるんですけどね。

多田 なるほどねえ。

浅田 特に、音楽とかアートとかいう回転が早くて不安定なところの人ほど、皆そういう宗教的な根拠を求めたがるんですよ。解散したYMOの細野晴臣さんなんか、今はもう完全にオカルトに凝っちゃって、役行者えんぎやうしやのあとをたずねて霊地を巡る、なんて世界ですから(笑)、オカシイですね。彼らはテクノロジーの粋をつくした音楽で売ってるのにもかわらず、すごく宗教的なものにフツといっちゃう。そういうのこれから増えそうですね。

しかしね、最近ではこういうブームが小学生の間にも流行ってるんですよ。彼らにとっては科学技術が神話的想像力なんかとフワッとひつついちゃう。だからテレビゲームなんかでも、非常に精緻なテクノロジーによりつつ神話的大河絵巻のようなストーリー構成をもったものがあるんですよ。あれはハイテク時代の神話的思考みたいなところがあって面白いですね。それに学研が「ムー」っていう超能力ものの雑誌を出しているんですが、それに折り込み付録マンガラ、なんてのがついてて(笑)、子供がそれを壁に張ったりして見ている(笑)なんて、ちょっとコワイですね。これがまた上昇志向に結びついたりして、超能力で記憶を良くしてテストの点を上げる、なんてことになったりして(笑)。これはイッタイゼンタイという世界なのか(笑)、ってカンジですよ。だからますますハイテクノロジー的環境になるってことと、そういう一種プリミティブな原始宗教がでてるっていうのが同時にすすむようですね。我々はむしろ旧世代で、今の中学生から下はホント、未恐しいですね。

多田 おもしろいわね。怖るべき子供が未来のアンファン・テリブルを「おそれる」。歴史は繰り返すんですね。

△六甲／ブルー・マウンテンにて▽

撮影／渡辺 泰臣



兵庫県産但馬牝牛

## 初夏の北野に“寛ぎの食空間”誕生

当初の予定より1週間程遅れ、お客様に大変御迷惑をおかけいたしましたがお蔭様で6月27日に増新築オープン運びとなりました。

新しく大きくなった和黒は新感覚あふれる明るいくつろぎの空間。手頃なお値段の新メニューも加わり幅



広い層の方々に御利用いただけます。季節の先取りの前菜と料理の技で焙りあげる神戸ビーフの香ばしさを存分にお楽しみいただけます。お気軽に是非あぶり肉工房和黒へお出かけ下さいますよう御案内申し上げます。

神戸 **Steak WAKKOU** 北野坂  
☎(078) 222-0678  
神戸肉登録指定店